中日ニュース

シネスコ版

道新 No.160 冬せまる災害地 ―森町―14吹（本編トップへ追加）
高新 No.244 本編同じ
新愛媛 No.73 〃
中日新 No.86 くし柿の里 ―広島、庄調―9吹（本編トップへ追加）

No. 4 1 0 36.11.24

一、東南アジアへ〝池田外交〟

去る十一月十六日、池田総理は随員二十四人を伴って東南アジア四ケ国訪問の旅に立ちました。

途中、カルカッタで一泊した総理一行は、十七日パキスタンへ――。パキスタンは、今度の訪問中最も対日関係のいいところといわれ、カラチ空港は、歓迎一色に彩られています。

空港に降り立った総理は、パキスタン海軍の栄誉礼をうけた後、迎賓館に向います。

近代化を急ぐカラチの町。沿道に見る低開発国の実情は、箱根会談の意義を一層深くしたことでしょう。

その夜大統領官邸に招待された総理は、夫人と令嬢を伴いアユブ・カーン大統領夫妻となごやかなひとときをすごしたのです。

こうして十五日間にわたる〝池田外交〟は、アジアの政治、経済に新たな局面を開くものと見られています。

一、九日間の日本の旅

――アレキサンドラ王女――

東南アジア公式訪問の途中、十四日に日本を訪れたイギリス王室のプリンセス・アレキサンドラ姫は、十五日には皇居で両陛下と御対面しました。歌舞伎鑑賞など三日間の東京滞在後、〝日本の古典文化〟をたずねて、大和路の旅に出発しました。

しかし、真珠の鳥羽を振り出しに、奈良・京都といくにしたがって、世界のベスト・ドレッサーのモードを頂戴しようとする報導陣とディザイナー達で、王女の身辺は大変な騒ぎ。九日間の日本の旅で王女は圧倒的な人気を博しました。

一、その名も〝不良郵便局〟

郵便の遅配を一挙に解消するため全逓労組は四万人の増員要求を掲げて十一月十九日から超勤拒否に突入。政府と真向から対立することになりました。

しかし郵政当局は人手不足もあるが組合員のサボタージュがひどいからと反ばく。遅配の多い局へは監査官の大部隊を抜き打ちに送りこんでストップ・ウォッチで能率検査を次々と強行しました。

人手不足かサボタージュか、不良局のレッテルをはられた東京都世田谷区千歳郵便局でその実態をのぞいてみましょう。

ここを訪れてまず目につくことは局舎の古いことでこれがまず遅配の大きな原因。その上この四年間で郵便量は二倍にも増えたのに人手はわずか一、三倍。局舎一杯の郵便物と奮斗していますがどうしてもさばき切れません

こうした実状に郵政省も21名増員を認めましたが、給料が安いので人が集りません。

そのため日の暮れるまで超勤をしてこれをおぎなって来ましたがこれにも限界があります

安い賃銀でもくもく働く現場の郵便局員の姿をみると簡単にサボタージュといってすませるものでしょうか、当局が労働組合にこだわる限り遅配解消はありえないといえましょう。

214吹　37吹　12吹　16吹

製作配給　東京中日新聞　中部日本ニュース映画社